

# 今こそやろう減災式

東日本大震災以降、メディア等では「避難」がクローズアップされ、テレビの防災番組でも「避難方法や各地域の活動事例はこれだ！」と放送されています。確かに避難行動は必要なことですが「避難所に必ず避難する」というのは、すべての場合において正しい行動ではないことを、覚えておかなければなりません。

さて、今回はその時の状況・状態における、対応の違いから減災式を考えてみましょう。

過去の災害現場で「近所の人達は？」と尋ねられると「たぶん避難場所に避難したのでは？」と答える人が多いと聞きました。命に関わることで「たぶん、こうだろう」と。これは日本の防災教育の発端に問題があると云えます。多くの人が経験した小学生時代の防災訓練は、上階の理科室（視聴覚室）から火災が発生した想定で始まります。生徒は廊下に並んで、走らず慌てず避難をします。

さらに「走るな！しゃべるな！」と先生が放送までします。不思議に思うのが、一階の教室でも同じ行動がとられています。誰ひとり、一階なのに「窓からの避難行動」を取らないのです。先生が言う通りに行動する。これが私たちの身に染みついた防災訓練なのです。昨今の防災訓練でも「火災」が「地震」に置き換えられただけで、サイレンが鳴れば、机の下に隠れ、その後みんなで廊下に並び避難をする。毎年このような避難訓練を実施していると「地震が発生したら避難」「火災が発生したら避難」と、行動の刷り込みができあがってしまっているのです。その結果として、理科室で火災発生＝消火とはならないし、地震発生＝救護・救助と関連付のできない人達ができあがっているのが現状です。最初の話に出た「近所の人達は？」の返答に「生き埋めになっているかもしれない」「ケガをしているかもしれない」と思うことがなく、生き埋めになっていても「まずは避難優先」となっているのです。

考えてみてくださいね。みんなが避難をしてしまうと、誰が消火活動をするの？誰が生き埋めの人を助け出すの？避難場所に避難するという常識は、本当は非常識な行動ではないのでしょうか。確かに津波が来る、土砂崩れ、大火、爆発など、一般市民にはどうすることもできない、二次災害の恐れがある時は直ちに避難すること。この場合は、避難行動の正しい判断といえます。でも、自分自身の安全が確保できれば、その場所で被害を最小限に止める行動をとる必要があると思います。これについては、災害対策基本法第54条『（発見者の通報義務等）災害が発生するお

それがある異常な現象を発見した者は、遅滞なく、その旨を市町村長又は警察官若しくは海上保安官に通報しなければならない。何人も、前項の通報が最も迅速に到達するように協力しなければならない。』と、義務があることが明記されています。

しかし、義務について全く教わったことがないので。だから、というわけではないのですが、目の前の災害に対峙する行動をとらないようになったとも考えられます。

また、次のような言葉も昔から言い伝えられています。「火事場の馬鹿力」。人は災害時にとてつもない力を出して助け合い、援助し合う行動をとるともいわれています。でも、この言葉は馬鹿力を出した本人が言ったのでは無く、見ていた第三者の人が発する言葉だと考えられます。言い換えれば「傍観者の言葉」なのです。

過去、あるマンションで火災が発生しました。その時、必死になっての消火活動、消火水による漏水対策シートの配付と展張、避難誘導等自分たちにできることを一部の居住者が行いました。でも、その他多くの住民は、別の棟や路上から眺めているだけで手伝えることはしなかったのです。

何故でしょう？その答えは「私ひとりくらい行かなくても」「私以外に多くの人がいるし」「みんな見ているし」と傍観者を決め込んだのです。これは傍観者効果ともいわれ、人口が多く、日頃から刺激の多い都会では、緊急事態に対する当事者意識が鈍くなりがちとなります。要因として「責任の分散・評価懸念・多数の無知」といわれています。

責任の分散とは「私が助けなくても他の人が助けられるだろう」。評価懸念とは「軽率な行動だと他の人に馬鹿にされるのではないだろうか」。多数の無知とは「他の人が助けに行かないのは、今助けを必要としていない事態なのではないか」等と、手前勝手な思い込みの心理が働きます。これは他の人がどう考えているのかがコミュニケーションが無かったために、自分勝手に緊急性を過小評価してしまいます。この傍観者効果は、傍観者の数が多ければ多いほど、また周囲に自分より有能な人がいると感じている時ほど顕著に見られるようです。でも一番には、周囲の人や近所の人と、普段からのコミュニケーションがとれていない人ほど傍観者効果は現れやすいのです。こうなるのは、やはり子どもの頃からの間違った「当事者意識のない防災訓練」に発端はあるとも考えられます。『もしも自分の家が！もしも自分の大切な人が！』と考えれば、当事者意識が発生し協力しようと思いませんか。今からでも遅くはありません！何かが起これば、みんなで助け合う。

明日は我が身・お互い様の減災式を作りましょう！

